



一、概

知的協力国際委員会について

九二二年である。文化的関係の国際連盟機構の一部とするのは、当初失敗に終わったが、その後連盟によつて知的協力国際委員会が設置されたのがこの年である。この委員会は、思想の指導者として選ばれた著名な学者、科学者及び著作家たち十二名によつて構成されたが、その地位は国家的考慮を越えたものであつた。連盟委員会が国家の主権をかすことをし、教育問題も取り扱ふことが出来るかどうかといふ問題に對して、一教育事業にまで連盟の機能を及ぼすことは、各国の主権を侵すものである。と言ふ連盟総会の見解によつて、委員会は比較的問題を起さないと考へられるやうな活動だけに限定され、結局即ち、専門的な計画に閉じこもり、一般大衆の生活に直接關与することゝ殆どなかつた。国際理解のための教育といふ問題に對しては、多量な注意を払ふやうになつたが、それは平和の維持がすべての国家の關心事項であることが、明白になり始めてから後のことであつた。しかし、この發展もヨロツバ及びアジアに對する侵略的国家主義が勃興して、國際的組織の全体に對して挑戰を關する直前、わずかに請けついたらばかりであつた。

(註)

一、九二二年國際連盟の諮問機關として設置された知的協力國際委員會（我が國では學芸協力國際委員會と稱せられた）の最初の十二名の委員は次の人々であつた。

- パネルグジャ氏（カルカッタ大學經濟學教授）
 - ボネグイ嫌（クリスチヤナ大學動物學教授、連盟總會ノールウエー代表）
 - ド・カストロ氏（リオ・デ・ジャネイロ大學醫科大學長）
 - キエーリ夫人（パリア大學物理學教授）
 - デストレー氏（前學芸大臣、ベルギー學士院會員）
 - テイ・イン・スタイン氏（ベルリン科學院會員）
 - チー・イー・ヘール氏（ウイリソン天文台長、米國調查評議會名譽會長）
 - ギルバート・マレー氏（オックスフォード大學ギリシヤ語、博言學教授英國學士院理事會員）
 - ド・レーノルド氏（ベルン大學仏文學教授）
 - ル・フイニ氏（前文部大臣、トリノ王立學士院會長）
 - ド・トリス・クエヴエド氏（スペイン王立學士院會員）
- この當時國際連盟事務局次長として活躍した新渡戸稲造博士が、この委員會の事務を担当し、この事業につくした功績は大きか

天野 536

つた。
我が國からは、田中館愛楯博士、姉崎正治博士が、それぞれ委員に任命され、一九三八年運盟との協力を終止するまで、我が國もこの事業に協力した。我々の記憶すべき委員会の事業は、一九二三年の關東大震災によつて灰じんに歸した東京帝國大学図書館の復旧援助のためにつくられた、この委員会の活動である。

3

三 機構

4
外部から促されたものは、自発的な発展と、一九二四年より、府外部からの催促されたもの成長は、自発的な発展といふより、學院まは事務局と知力委員、國際聯盟はこの申し出を受諾した。この事務局に連盟を保持した。委員会は依然シユネーヴの連盟本部に、連盟事務局の存在は、一九二六年及び一九三一年の總會によつて承認された。一九二八年には、退國又は非加國加入させる供給の力に關する企圖も、交渉がた資本の目的汎な基礎によつて供給の力に關する企圖も、交渉がた商業の目的の為の議定書にて、趣旨は知的協力に關する、依然連盟の構のうちに止まらせた。また、國政的基礎の上を、一九二九年三月十一日、三十一日、実施され、同年六月まで、一九四四年のグロツムの解放が始まるまで、過ぎなかつた。西半球の成立後、事務局は、一九四五年に、ネスロに移管された。消滅した。ユネスコの成立後、事務局は、一九四五年に、

